

氏名	只 友 康 雄
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 3 8 3 号
学位授与の日付	昭和44年 9 月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	移植動物癌腫瘍抗原に関する研究 第1編：Ehrlich 腹水癌腫瘍組織低密度リボプロテイン の抗原性について 第2編：Ehrlich 腹水癌腫瘍リボゾーム蛋白の抗原性について
論文審査委員	教授 田 中 早 苗 教授 砂 田 輝 武 教授 小 川 勝 士

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

Ehrlich 腹水癌腫瘍の抗原性につき低密度リボプロテインおよびリボゾーム蛋白をもちいて免疫化学的方法および細胞培養法により検討した。抗原としては、低密度リボプロテインよりリボゾーム蛋白はすぐれた抗原性をしめすが、リボプロテインでは、その抗原性はリン脂質に関与するところが大きく、抗原としてのリボゾーム蛋白は、電気泳動ではアルブミンよりも塩基性の強い易動度をしめす蛋白である。抗原量としては、共に1.0mg 程度のものをもっとも適当であった。感作血清グロブリン、脾およびリンパ節グロブリンについては、抗腫瘍性は細胞培養法により、前者では感作後25日頃、後者では10日頃にその効力をもっとも強く、30日以後では減退の傾向にある。感作血清グロブリンについて α 、 β 、 γ -グロブリンに分画し検討した結果、 γ -グロブリンが抗腫瘍性の主体をなすが、 α 、および β -グロブリンにも関連性があると考えられる。本実験は抗原の単純化に意義があるものとする。

(岡山医学会雑誌：第80巻7-8号 昭和43年8月に発表)

論文審査の結果の要旨

本研究は、癌の抗原性について検索したもので、癌組織の低密度リボ蛋白およびリボゾーム蛋白はともに癌担原性をもっていることを認め、癌の特異性が膜系、蛋白合成系ともに存在することを示唆したもので、極めて価値ある仕事であると認める。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。